

NEWS LETTER



2026年8月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第19号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 山本龍生 編集 広報委員会



CONTENTS

- 第75回日本口腔衛生学会学術大会を終えて
- 2027年度学会に向けて
- 新任教授紹介
- 若手会員紹介リレー⑩
- 地方会報告トピックス
- 歯科疾患管理から口腔機能管理へ
- 最近の歯ブラシ事情
- 各種お知らせ
- 編集後記

第75回

日本口腔衛生学会学術大会を終えて

【大会長】 杉原直樹 (東京歯科大学衛生学講座主任教授)

令和8(2026)年5月22日(金)～24日(日)に沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターを会場として開催いたしました。大会テーマは「伝統と継承」とし、プログラムは特別講演、教育講演、日本歯科医学会会長懇話会、日本口腔衛生学会学術賞 LION Award 受賞講演、日本口腔衛生学会論文奨励賞受賞講演、シンポジウム11題、ミニシンポジウム6題、ポスター発表144題、ランチョンセミナー6題、情報交換会、理事会・社員総会、認定医研修会で構成いたしました。参加者総数は633名に達し、企業展示73社(82コマ)、その他協賛および広告掲載企業31社で、企業展示ブースではスタンプラリーによる抽選も行われ、盛会のうちに終了いたしました。また、情報交換会には多数の会員の皆様、企業の皆様にご参加いただきまして心から感謝を申し上げます。会の最後には、宜野湾市の上空に線状降水帯が発生するという思いがけない出来事もありました。

本大会開催に際して企業展示、協賛および広告掲載、ランチョンセミナーを開催していただいた企業の皆様に厚く御礼申し上げます。また、大会参加者の皆様、大会および大会運営をご担当いただきました実行委員会および当日業務をお手伝いいただいた関係者の皆様に深謝いたします。



2027年度 学会に向けて

【2027 年度大会長】 安細敏弘（九州歯科大学）

2027 年度の学会テーマは、『予防歯科の原点回帰』としたいと考えています。現在、予防歯科を語らずに歯科臨床は成り立たないことは口腔衛生学・予防歯科学を専門とする者はもちろん、歯科医療関係者や歯科保健に係わる者にとって周知の事実です。臨床の現場において日々の診療で患者さんにブラッシング指導など行っているにもかかわらず標準化された臨床予防歯科ガイドラインはないのが現状ではないでしょうか。そこで今回の学会では、以下の3つの切り口を考えました。すなわち、1) 次世代歯ブラシはどこに向かうのか、2) 人間工学の視点からブラッシング方法を科学する、および3) ブラッシング行動の動機づけ戦略の3点です。2) の人間工学的アプローチについては、会津大学コンピューター理工学部の Shin Jungpil 教授と鹿児島大学小児歯科の稲田絵美先生に講演していただく予定です。Shin 先生は、パーキンソン病の病態を3D モーションキャプチャー法や AI を用いて解明しておられますし、稲田先生は3次元動作計測装置を用いて歯みがき動作の解析をされています。

そのほか、神奈川県でご開業の江口康久万先生や一橋大学大学院の井伊雅子教授に講演をお願いしています。江口先生は、学校歯科医として「eみがき方」というユニークな指導方法でう蝕予防に効果をあげておられ、YouTube などでも動画配信されています。井伊先生は地域医療の経済学(慶應大学出版会)を執筆されていますが、本学会では医療の質・医療費・ヘルスリテラシーの視点で歯科医療の質を含めて話していただく予定です。

あわせて、日本口臭学会との共同セッションを企画中です。今後、学会員からの企画を含めて楽しい学会、おもしろい学会を目指していきますので2027年5月15日(土)、16日(日)の日程をあけていただき、是非、北九州に足を運んでいただきたいと切にお願い致します。

新任教授紹介



南 健太郎（奥羽大学歯学部口腔衛生学講座教授）

この度、2025年10月1日付で奥羽大学歯学部口腔衛生学講座教授を拝命いたしました南 健太郎と申します。

私は岩手医科大学歯学部を卒業後、同大学大学院歯学研究科において、エナメル質の再石灰化に関する研究に従事してまいりました。特に、プラーク下におけるエナメル質の再石灰化機構やリン酸化オリゴ糖カルシウム(POs-Ca)を用いた歯質再石灰化について研究を進めてまいりました。2009年にはオランダ国立フローニンゲン大学に留学し、歯質再石灰化に関する研究をさらに深める機会を得ました。

2018年より奥羽大学歯学部口腔衛生学講座に所属し、現在も歯質の再石灰化を主たる研究テーマとして取り組んでおります。近年は、口腔保湿剤にリン酸化オリゴ糖を配合し、保湿機能に加えて初期う蝕の予防や歯質再石灰化促進効果を有する新たな口腔保健製品の開発を進めております。超高齢社会を迎えたわが国において、口腔機能管理とう蝕予防に貢献する研究として発展させていきたいと考えております。

教育面では、口腔衛生学、社会歯科学および歯科医療管理学を担当しております。歯科医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、科学的根拠に基づいた予防歯科・公衆衛生学の重要性を学生に伝え、地域社会に貢献できる歯科医師の育成に努めてまいります。

今後とも皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

若手会員紹介リレー⑩



丸山貴之（岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野）
→大森智栄先生（梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科）

今回の若手会員紹介リレーは、岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野の丸山貴之が担当し、梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科の大森智栄先生をご紹介します。

大森先生は東京医科歯科大学（現：東京科学大学）歯学部口腔保健学科を卒業後、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の修士課程に進学されました。修了後も口腔衛生学についての研究をより深めるべく、香川大学医学部附属病院歯・顎・口腔外科の歯科衛生士として勤務する傍ら、社会人大学院生として岡山大学予防歯科学分野の博士課程に進学、修了されました。6年間、研究室で一緒にさせていただきましたが、その中でも周術期口腔ケアに関する研究では、土日も含めて毎日朝早くから夜遅くまでICUへ行って、患者の口腔ケアを行い、口腔内細菌を採取したことは記憶に強く残っています。また、大森先生のお兄様が私と同年ということもあり、私を兄のように慕っていただき、さまざまな相談にも乗らせていただきました。その後、梅花女子大学に就職され、歯科衛生士学生の教育や研究に携わられています。私は毎年、臨床実地（臨地）実習の講義に招聘いただき、「周術期口腔機能管理における歯科衛生士の役割について」の講義を担当し、微力ながら教育のお手伝いをさせていただいております。

研究では、大学院在学中に「大学生における第二大臼歯の埋伏状況と口腔内の因子との関連」について近畿・中国・四国口腔衛生学会で発表され、優秀ポスター賞を受賞されました。本研究の成果は口腔衛生学会雑誌にまとめておられます。また、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて研究された「都道府県別データを用いた咀嚼状態と平均寿命の地域相関研究」について、2026年度日本口腔衛生学会論文奨励賞を受賞されました。本研究は、都道府県レベルにおいても咀嚼困難者割合が高い都道府県では平均寿命が低い傾向があることを示されており、生活習慣病対策や健康寿命の延伸に向けた地域保健施策における口腔保健の重要性を支持する重要な知見となります。

教育では、梅花女子大学の精神にもとづき、豊かな教養と専門性を兼ね備え、さまざまな問題に果敢に立ち向かい解決できる「チャレンジ」精神と、品性と思いやりのある「エレガンス」を兼ね備えた歯科衛生士の育成に貢献されています。

このように、口腔衛生学の世界で大いに活躍されている大森先生に、次のバトンをお渡しさせていただきます。大森先生、どうぞよろしくお願いします。

乳幼児健診の新しい風（5歳児健診と歯科保健）

口腔衛生関東地方研究会 幹事長：弘中祥司（昭和医科大学歯学部口腔衛生学講座 教授）

口腔衛生関東地方研究会では本年2月22日に歯科保健の行き先に「5歳児健診と歯科保健」というテーマで、特別講演・シンポジウムを行いました。150名程度の参加者があり、質疑応答も活発でした。これまでに3歳児健診（法定健診）以降、就学時健診まで健診がないため、切れ目のない母子保健の機会の提供や、社会性発達の評価、発達障害等のスクリーニング、健康増進を目的とした、5歳児健診の標準化・体制整備が必要であることは間違いないと思います。特に近年増加している、特別な配慮が必要な就学前の児童に対して、5歳児健診を通じて、幼児のみならず、保護者の課題への気づきや生活への適応も支援できる可能性を秘めています。

今回の企画では、医師・歯科医師・保健師・公認心理師からの積極的なご意見により、2024年12月から順次開始して2028年度までに全国の市区町村で実施率100%を目指している政府方針にいかに関与できるか、議論が行われました。歯科の中でも特に子どもに関わる小児歯科・障害者歯科・歯科衛生学会からも、示唆に富んだ意見もあり、主催者として幸いでした。本学会からも、子どもたちが輝く未来に、幅広く貢献したいと願っております。



歯科疾患管理から口腔機能管理へ ～令和8年度診療報酬改定が示す方向性～

小椋正之（日本大学松戸歯学部歯科医療管理学講座医療政策分野 教授）

令和7年12月24日の大臣折衝を踏まえ、令和8年度診療報酬改定の改定率は+3.09%に決定した。この+3.09%という数字は近年では例を見ない大幅な改定率であり、当初は大きな期待が寄せられた。しかし、歯科の診療報酬に係る改定率は+0.31%であり、これに物価対応分や緊急対応分等を加えた結果、最終的な改定財源は従来の診療報酬改定と同程度の水準となっている。

令和8年度診療報酬改定では、「歯科疾患管理料」が見直され、従来は初回80点、2回目以降100点であったものが、初回・2回目以降ともに90点へと変更された。初回については10点の増点となったが、2回目以降につい

ては10点の減点となった。算定回数をみると、再診は初診の約4倍となっており、「歯科疾患管理料」も再診時の算定が多いことから、全体としては実質的な減算となったと考えるのが妥当である。

その一方で、「小児口腔機能管理料」および「口腔機能管理料」は、従来の60点から、「小児口腔機能管理料1」、「口腔機能管理料1」が90点、「小児口腔機能管理料2」、「口腔機能管理料2」が50点へと再編された。従来よりも簡素化された管理料2が新設され、管理内容に応じた評価体系となり、口腔機能管理に対する評価は全体として拡充されたと考えられる。

さらに、口腔機能に関しては、「歯科衛生実地指導料」の加算であった「口腔機能指導加算」が廃止され、新たに「口腔機能実地指導料」が新設された。この指導料の施設基準として特徴的なのは、口腔機能に関する研修を受講した歯科衛生士による実施が求められている点である。この研修の主催者は、歯科医師または歯科衛生士を主体とする団体もしくは学会等とされており、研修内容は、口腔機能発達不全症および口腔機能低下症の概要、検査法、訓練法、実地指導方法等（入院患者や在宅・施設療養患者への対応を含む。）に関するものとされている。このような研修を受講した歯科衛生士に限定する算定要件は従来には見られなかったものであり、口腔機能に関する一定の知識と技能を有する歯科衛生士による指導を評価する仕組みとなっている。なお、この施設基準については令和9年5月31日まで経過措置が設けられており、この期間中は研修を受講していない歯科衛生士であっても施設基準を満たすものとみなされ、「口腔機能実地指導料」を算定することができる。

「歯科疾患管理料」の評価が見直される一方で、「小児口腔機能管理料」および「口腔機能管理料」が充実されたこと。また、「口腔機能実地指導料」の実施については、口腔機能に関する研修を受講した歯科衛生士に限定されたことは、従来のう蝕や歯周病等の歯科疾患の継続的な管理に加え、口腔機能の維持・向上を重視した管理へと重点を移していくべきという国からのメッセージと捉えることができる。今後、歯科の診療報酬においては、口腔機能に関する医学管理や検査等の評価がさらに充実していくものと考えられる。そのため、従来からの歯科疾患の対応に加え、口腔機能の評価・管理を日々の診療の中に積極的に取り入れていくことが、ますます重要になるであろう。

最近の歯ブラシ事情

昨今、歯ブラシは、手用歯ブラシ、電動歯ブラシに加えて用途を明確にした特徴的でユニークなものが製品化され、販売されています。そこで、今回のニュースレターでは、話題提供として、「ロボット歯ブラシ」をキーワードとして、google検索したものの一部をご紹介します。いずれも時短（忙しい朝に）、高齢者および要介護者の利用が推奨されています。

1. U型3D全口カバー音波電動歯ブラシ

U字型のブラシヘッド、360°全周洗浄となる。①ソフトモード②強力クリーンモード（歯垢除去重視）③ブルーライトホワイトニングモード（美白歯に）④歯ぐきケア、の4モードがある。



画像：参考文献より

10～45秒で全部の歯を1度にまとめて磨ける。シリコンブラシ／ナイロンブラシを使用している。同様な構造で振動数、ブラシの本数が異なる製品が各メーカーから販売されている。

<参考文献>

Michele Nieri, Veronica Giuntini, Umberto Pagliaro, et al.: Efficacy of a U-Shaped Automatic Electric Toothbrush in Dental Plaque Removal: A Cross-Over Randomized Controlled Trial, Int. J. Environ. Res. Public Health 2020, 17, 4649; [doi:10.3390/ijerph17134649](https://doi.org/10.3390/ijerph17134649).

2. Y ブラッシュ（音波振動）

ナイロンヘッド 35,000 本のナイロン毛が 45° の角度で歯の両面にフィットする。



画像：参考文献より

＜参考文献＞

Maria Denisa Statie, Irene Lomonaco, Michele Nieri, et al.: Efficacy of an automatic electric toothbrush with nylon bristles in dental plaque removal: a cross-over randomized controlled trial, Clin Oral Investig. 2024 Mar 14; 28(4): 211.

3. AUTODENT



BRIGHT DIY 社 HP より

2 種類（高周波／低周波）の振動, 12,900 本のナイロン毛, シリコブラシヘッド, ブラシヘッドが 6 度の角度で動く, 上下顎別々に磨く（上顎 30 秒, 下顎 30 秒）。

4. g.en（ジェン）

口にくわえるだけで自動的に歯磨きができる。ブラシが移動・回転しながら歯垢を除去する方式。頬側・舌側の両面を同時に清掃する（咬合面には対応していない）。4 モード（お手軽, ていねい, 重点, 子ども）。ナイロン毛使用。60 秒で磨ける。



画像：参考文献より

＜参考文献＞

外園真規, 井田貴子, 枝並直樹, ほか：試作全自動歯ブラシによるデンタルバイオフィルム除去効果, 日本ヘルスケア歯科学会誌, 23：47-56, 2022.

各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。詳細は、学会誌第76巻第1～3号をご参照ください。
なお、学会誌は第76巻第1号より電子ジャーナル化し、学会ウェブサイトに掲載しております。※特別号を除く

学会認定医・専門医・指導医の新規・更新申請につきましては2026年度よりオンライン申請に移行しました。申請フォーム等の詳細は学会ウェブサイト会員専用ページにてご確認ください。

学会認定医申請・更新（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで）。

学会専門医申請（2026年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで）。

学会指導医申請（2026年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで）。

学会認定地域口腔保健実践者の申請（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会地域口腔保健実践者制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（水）まで（消印有効））。

認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2026年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士専門審査制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（水）まで（消印有効））。

2026年度選挙代議員・理事選挙有権者リスト掲載について

次期代議員・理事の選出に関して、2026年4月1日から11月中旬頃まで、各地方団体によって行われます。関連して、本学会ホームページ会員専用ページに有権者リストを地方ごとに掲載させていただきました。

日本口腔衛生学会フッ化物応用研究奨励賞

“ウォーター フロリデーション ファンド アワード” が新設されました！

フッ化物応用委員会委員長 相田 潤

2027 年度より、表記の賞が新設されました。水道水フロリデーションおよびフッ化物局所応用によるう蝕予防推進のため、それらに関する研究者の中から新たに優れたものを顕彰するための賞です。フロリデーションまたはフッ化物の局所応用に関連ある優れた研究内容を、日本口腔衛生学会の学術大会で筆頭者として発表する研究が対象になります。毎年 1 名の受賞者には学会からの賞状とスポンサーからの副賞（10 万円）が授与されます。応募受付は本年 12 月頃に開始予定です。ぜひふるってご応募ください。賞の詳細は学会ホームページならびに 10 月末発行予定の学会誌第 76 巻第 4 号をご覧ください。

▶ホームページ会員専用ページ URL : <https://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/member/award/>

編集後記 広報委員会より

ニュースレター Vol. 19 は有川量崇先生（日大松戸）、田口千恵子先生（日大松戸）および安細敏弘（九歯大）が編集担当でした。オンライン会議を数回行い、どんなコンテンツにしようか意見交換をしながらブラッシュアップし、発刊することができました。ご寄稿いただいた先生方、ご協力いただき誠にありがとうございました。

今後もニュースレターで、本学会の取り組みなどをお伝えしてまいります。引き続きご支援ご協力いただきますようお願いいたします。